

実務者研修 授業概要

アイメイドアルファ介護士育成センター（通信課程）

科目名	人間の尊厳と自立	授業担当者	小野 昭尋
授業種類	通信課程	必修・選択	必修
授業回数		時間数	5時間
使用テキスト	介護福祉士実務者研修テキスト 中央法規		
評価の方法と基準	科目別課題集による添削により70点以上の加点により合格とする。 不合格の場合は合格により修了者と認定できるまで繰り返し課題集を再提出する。		
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <u>尊厳の保持を理解する。</u></li> <li>● <u>自立の支援を理解する。</u></li> <li>● <u>ノーマライゼーションを理解できる。利用者のプライバシーの保護、権利擁護等、介護の基本的な理念を理解する。</u></li> </ul>			
<p>[授業内容の概要]</p> <p>・テキストを精読し、各自の理解を深めたうえで課題集を解答させ、評価する。 (テキスト項目)</p> <p>介護福祉士実務者研修テキスト第1巻「第1章 人間の尊厳と自立」</p> <p>第1節 人間の多面的な理解と尊厳</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人間を理解すること</li> <li>・人間の尊厳の意義</li> <li>・人権、そして尊厳をめぐる歴史的経緯</li> </ul> <p>第2節 自立の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護における自立</li> <li>・自立への意欲と動機づけ</li> <li>・自立した生活を支えるための援助の視点</li> </ul> <p>第3節 人権と尊厳</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護における権利擁護と人権尊重</li> <li>・高齢者虐待の実態と介護の課題</li> <li>・尊厳の保持をめざした介護実践</li> </ul>			
<p>[修了時の達成課題]</p> <p>・尊厳の保持、自立の支援、ノーマライゼーション、利用者のプライバシーの保護、権利擁護等、介護の基本的な理念を理解する。</p>			

実務者研修 授業概要

アイメイドアルファ介護士育成センター（通信課程）

科目名	社会の理解 I	授業担当者	小野 昭尋
授業種類	通信課程	必修・選択	必修
授業回数		時間数	5 時間
使用テキスト	介護福祉士実務者研修テキスト 中央法規		
評価の方法と基準	科目別課題集による添削により 70 点以上の加点により合格とする。 不合格の場合は合格により修了者と認定できるまで繰り返し課題集を再提出する。		
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <u>介護保険制度の体系、目的を理解する。</u></li> <li>● <u>介護保険制度のサービスの種類と内容、利用までの流れ、利用者負担を理解する。</u></li> <li>● <u>介護保険制度の専門職の役割等を理解する。</u></li> <li>● <u>介護保険の実施状況と今後の課題を理解する。</u></li> </ul>			
<p>[授業内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テキストを精読し、各自の理解を深めたうえで課題集を解答させ、評価する。 (テキスト項目)</li> </ul> <p>介護福祉士実務者研修テキスト第 1 巻「第 2 章 介護保険制度の理解」</p> <p>第 1 節 介護保険制度創設の背景と目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護保険制度の創設をめぐる社会的背景</li> <li>・1990 年代までの高齢者介護の制度と社会福祉基礎構造改革</li> <li>・介護保険制度の基本理念</li> </ul> <p>第 2 節 介護保険制度の基礎的理解</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護保険制度の概要</li> <li>・保険者・被保険者</li> <li>・保険給付の対象者</li> </ul> <p>第 3 節 介護保険制度における専門職の役割</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護職の役割</li> <li>・介護支援専門員の役割</li> <li>・その他の専門職の役割</li> </ul>			
<p>[修了時の達成課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護保険制度の体系、目的、サービスの種類と内容、利用までの流れ、利用者負担、専門職の役割等を理解し、利用者等に助言できる。</li> </ul>			

実務者研修 授業概要

アイメイドアルファ介護士育成センター（通信課程）

科目名	社会の理解Ⅱ	授業担当者	小野 昭尋
授業種類	通信課程	必修・選択	必修
授業回数		時間数	30 時間
使用テキスト	介護福祉士実務者研修テキスト 中央法規		
評価の方法と基準	科目別課題集による添削により70点以上の加点により合格とする。 不合格の場合は合格により修了者と認定できるまで繰り返し課題集を再提出する。		
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <u>家族、地域、社会との関連から生活と福祉をとらえることができる。</u></li> <li>● <u>地域共生社会の考え方と地域包括ケアのしくみについての基本的な知識を習得する。</u></li> <li>● <u>社会保障制度の発達、体系、財源等についての基本的な知識を習得する。</u></li> <li>● <u>障害者総合支援法の体系、目的、サービスの種類と内容、利用までの流れ、利用者負担、専門職の役割等を理解し、利用者等に助言できる。</u></li> <li>● <u>成年後見制度、生活保護制度、保健医療サービス等、介護実践に関連する制度の概要を理解する。</u></li> </ul>			
<p>[授業内容の概要]</p> <p>・テキストを精読し、各自の理解を深めたうえで課題集を解答させ、評価する。 (テキスト項目)</p> <p>介護福祉士実務者研修テキスト第1巻「第3章 社会のしくみの理解」</p> <p>第1節 社会と生活のしくみ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭生活の基本機能</li> <li>・家族</li> <li>・地域</li> </ul> <p>第2節 地域共生社会の実現に向けた制度や施策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域共生社会とは</li> <li>・地域包括ケアシステムとは</li> </ul> <p>第3節 社会保障制度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会保障の概念・範囲</li> <li>・日本の社会保障の発達</li> <li>・社会保障の意義・役割</li> </ul> <p>第4節 障害者総合支援制度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・障害の種類と定義</li> <li>・障害者自立支援法から障害者総合支援法へ</li> <li>・サービスの種類と内容</li> </ul> <p>第5節 介護実践にかかわる諸制度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サービスの利用にかかわる諸制度</li> <li>・虐待防止の諸制度</li> <li>・人々の権利を擁護するその他の諸制度</li> </ul>			
<p>[修了時の達成課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 家族、地域、社会との関連から生活と福祉をとらえることができるようになる。</li> </ul>			

- 地域共生社会の考え方と地域包括ケアのしくみについての基本的な知識を習得している。
- 社会保障制度の発達、体系、財源等についての基本的な知識を習得している。
- 障害者総合支援法の体系、目的、サービスの種類と内容、利用までの流れ、利用者負担、専門職の役割等を理解し、利用者等に助言できるようになる。
- 成年後見制度、生活保護制度、保健医療サービス等、介護実践に関連する制度の概要を理解できるようになる。

実務者研修 授業概要

アイメイドアルファ介護士育成センター（通信課程）

科目名	介護の基本 I	授業担当者	小野 昭尋
授業種類	通信課程	必修・選択	必修
授業回数		時間数	10 時間
使用テキスト	介護福祉士実務者研修テキスト 中央法規		
評価の方法と基準	科目別課題集による添削により 70 点以上の加点により合格とする。 不合格の場合は合格により修了者と認定できるまで繰り返し課題集を再提出する。		
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <u>介護福祉士の法的な定義や義務を踏まえ、介護予防や看取り、災害時等における介護福祉士の役割を理解する。</u></li> <li>● <u>個別ケア、ICF（国際生活機能分類）、リハビリテーション等の考え方を踏まえ、尊厳の保持、自立に向けた介護を展開するプロセス等を理解する。</u></li> <li>● <u>介護福祉士の職業倫理、身体拘束禁止・虐待防止に関する法制度等を理解し、倫理を遵守する。</u></li> </ul>			
<p>[授業内容の概要]</p> <p>・テキストを精読し、各自の理解を深めたうえで課題集を解答させ、評価する。 (テキスト項目)</p> <p>介護福祉士実務者研修テキスト第2巻「第1章 介護福祉士と介護の考え方」</p> <p>第1節 介護福祉士の役割と機能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護福祉士を取り巻く状況</li> <li>・社会福祉士及び介護福祉士法</li> <li>・介護人材のキャリアパス</li> </ul> <p>第2節 尊厳の保持、自立に向けた介護の考え方と展開</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者に合わせた生活支援</li> <li>・自立に向けた支援</li> <li>・自立に向けた ICF の考え方</li> </ul> <p>第3節 介護福祉士の倫理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護福祉士としての倫理の必要性</li> <li>・日本介護福祉士会倫理綱領</li> </ul>			
<p>[修了時の達成課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 介護福祉士の法的な定義や義務を踏まえ、介護予防や看取り、災害時等における介護福祉士の役割を理解できる。</li> <li>● 個別ケア、ICF（国際生活機能分類）、リハビリテーション等の考え方を踏まえ、尊厳の保持、自立に向けた介護を展開するプロセス等を理解できる。</li> <li>● 介護福祉士の職業倫理、身体拘束禁止・虐待防止に関する法制度等を理解し、倫理を遵守できる。</li> </ul>			

実務者研修 授業概要

アイメイドアルファ介護士育成センター（通信課程）

科目名	介護の基本Ⅱ	授業担当者	小野 昭尋
授業種類	通信課程	必修・選択	必修
授業回数		時間数	20 時間
使用テキスト	介護福祉士実務者研修テキスト 中央法規		
評価の方法と基準	科目別課題集による添削により70点以上の加点により合格とする。 不合格の場合は合格により修了者と認定できるまで繰り返し課題集を再提出する。		
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <u>介護を必要とする高齢者や障害者等の生活を理解し、ニーズや支援の課題を把握する。</u></li> <li>● <u>チームアプローチに関わる職種や関係機関の役割、連携方法に関する知識を習得する。</u></li> <li>● <u>リスクの分析と事故防止、感染管理等、介護における安全確保に関する知識を習得する。</u></li> <li>● <u>介護従事者の心身の健康管理や労働安全対策に関する知識を習得する。</u></li> </ul>			
<p>[授業内容の概要]</p> <p>・テキストを精読し、各自の理解を深めたうえで課題集を解答させ、評価する。 (テキスト項目)</p> <p>介護福祉士実務者研修テキスト第2巻「第2章 介護福祉士による介護実践」</p> <p>第1節 介護を必要とする人の生活の理解と支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「その人らしさ」の理解</li> <li>・高齢者の暮らしと支援の実際</li> <li>・障害のある人の暮らしと支援の実際</li> </ul> <p>第2節 介護実践における連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多職種連携</li> <li>・地域連携</li> </ul> <p>第3節 介護における安全の確保とリスクマネジメント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事故防止と安全対策</li> <li>・感染対策</li> </ul> <p>第4節 介護従事者の安全</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康管理の意義と目的</li> <li>・健康管理に必要な知識と技術</li> <li>・安心して働ける環境づくり</li> </ul>			
<p>[修了時の達成課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護を必要とする高齢者や障害者等の生活を理解し、ニーズや支援の課題を把握することができる。</li> <li>・チームアプローチに関わる職種や関係機関の役割、連携方法に関する知識を習得している。</li> <li>・リスクの分析と事故防止、感染管理等、介護における安全確保に関する知識を習得している。</li> <li>・介護従事者の心身の健康管理や労働安全対策に関する知識を修得している。</li> </ul>			

実務者研修 授業概要

アイメイドアルファ介護士育成センター（通信課程）

科目名	コミュニケーション技術	授業担当者	小野 昭尋
授業種類	通信課程	必修・選択	必修
授業回数		時間数	20 時間
使用テキスト	介護福祉士実務者研修テキスト 中央法規		
評価の方法と基準	科目別課題集による添削により70点以上の加点により合格とする。 不合格の場合は合格により修了者と認定できるまで繰り返し課題集を再提出する。		
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <u>本人・家族との支援関係を構築し、意志決定を支援する。</u></li> <li>● <u>利用者の感覚・運動・認知等の機能に応じたコミュニケーションの技法を選択し活用する。</u></li> <li>● <u>チームマネジメント（組織の運営管理、人材管理、リーダーシップ・フォロワーシップ等）に関する知識を理解し、活用する。</u></li> <li>● <u>状況や目的に応じた記録、報告、会議等での情報を共有化する。</u></li> </ul>			
<p>[授業内容の概要]</p> <p>・テキストを精読し、各自の理解を深めたうえで課題集を解答させ、評価する。 （テキスト項目） 介護福祉士実務者研修テキスト第2巻「第3章 コミュニケーション技術」 第1節 介護におけるコミュニケーション ・コミュニケーションの意義、目的、役割 ・コミュニケーションの技法 ・支援関係の構築と意思決定の支援 第2節 介護におけるコミュニケーション技術 ・話を聴く技法 ・利用者の感情表現を察する技法 ・利用者の納得と同意を得る技法 第3節 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション ・コミュニケーション障害の理解 ・視覚の障害に応じたコミュニケーション技術 ・聴覚の障害に応じたコミュニケーション技術 第4節 介護におけるチームマネジメントとコミュニケーション ・チームマネジメントの理解と活用 ・チームのコミュニケーションとは ・記録による情報の共有化</p>			
<p>[修了時の達成課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 本人・家族との支援関係を構築し、意志決定を支援することができる。</li> <li>● 利用者の感覚・運動・認知等の機能に応じたコミュニケーションの技法を選択し活用できる。</li> <li>● チームマネジメント（組織の運営管理、人材管理、リーダーシップ・フォロワーシップ等）に関する知識を理解し、活用できる。</li> </ul>			

- 状況や目的に応じた記録、報告、会議等での情報の共有化できる。

実務者研修 授業概要

アイメイドアルファ介護士育成センター（通信課程）

科目名	生活支援技術 I	授業担当者	小野 昭尋
授業種類	通信課程	必修・選択	必修
授業回数		時間数	20 時間
使用テキスト	介護福祉士実務者研修テキスト 中央法規		
評価の方法と基準	科目別課題集による添削により 70 点以上の加点により合格とする。 不合格の場合は合格により修了者と認定できるまで繰り返し課題集を再提出する。		
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <u>生活支援における ICF の意義と枠組みを理解する。</u></li> <li>● <u>ボディメカニクスを活用した介護の原則を理解し実施する。</u></li> <li>● <u>自立に向けた生活支援技術の基本（移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔、家事援助等）を習得する。</u></li> <li>● <u>居住環境の整備、福祉用具の活用等により、利用者の生活環境を整備する視点・留意点を理解する。</u></li> </ul>			
<p>[授業内容の概要]</p> <p>・テキストを精読し、各自の理解を深めたうえで課題集を解答させ、評価する。 （テキスト項目）</p> <p>介護福祉士実務者研修テキスト第 2 巻「第 4 章 自律に向けた生活支援技術」</p> <p>第 1 節 生活支援と ICF</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活支援とアセスメント</li> <li>・ICF の視点とアセスメント</li> </ul> <p>第 2 節 居住環境の整備と福祉用具の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・居住環境の意義</li> <li>・生活空間と介護</li> <li>・福祉用具の活用</li> </ul> <p>第 3 節 移動・移乗の生活支援技術の基本</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・移動・移乗の介助を行うにあたって・ボディメカニクスの活用</li> <li>・体位変換の介助</li> <li>・車いすの介助</li> </ul> <p>第 4 節 食事の生活支援技術の基本</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食事の介助を行うにあたって</li> <li>・食事の介助</li> </ul> <p>第 5 節 入浴・清潔保持の生活支援技術の基本</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入浴の介助を行うにあたって</li> <li>・入浴の介助</li> <li>・部分浴の介助</li> </ul> <p>第 6 節 排泄の生活支援技術の基本</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・排泄の介助を行うにあたって</li> <li>・排泄の介助</li> </ul>			

#### 第7節 着脱、整容、口腔清潔の生活支援技術の基本

- ・身じたくの介助を行うにあたって
- ・衣服着脱の介助
- ・整容の介助

#### 第8節 家事援助の基本

- ・生活と家事の理解
- ・調理
- ・洗濯

#### [修了時の達成課題]

- 生活支援における I C F の意義と枠組みを理解している。
- ボディメカニクスを活用した介護の原則を理解し、実施できる。
- 自立に向けた生活支援技術の基本（移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔、家事援助等）を習得している。
- 居住環境の整備、福祉用具の活用等により、利用者の生活環境を整備する視点・留意点を理解している。

実務者研修 授業概要

アイメイドアルファ介護士育成センター（通信課程）

科目名	生活支援技術Ⅱ	授業担当者	小野 昭尋
授業種類	通信課程	必修・選択	必修
授業回数		時間数	30 時間
使用テキスト	介護福祉士実務者研修テキスト 中央法規		
評価の方法と基準	科目別課題集による添削により70点以上の加点により合格とする。 不合格の場合は合格により修了者と認定できるまで繰り返し課題集を再提出する。		
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <u>環境整備・移動・移乗・食事・入浴・清潔保持・排泄・着脱、整容、口腔清潔・休息・睡眠・人生の最終段階における介護・福祉用具の活用について、利用者の心身の状態に合わせた、自立に向けた生活支援技術を理解し、行えるようにする。</u></li> </ul>			
<p>[授業内容の概要]</p> <p>・テキストを精読し、各自の理解を深めたうえで課題集を解答させ、評価する。 (テキスト項目)</p> <p>介護福祉士実務者研修テキスト第2巻「第5章 利用者の心身の状態に応じた生活支援技術」</p> <p>第1節 環境整備と福祉用具等の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者に適した生活環境の整備</li> <li>・利用者に適した福祉用具の選定</li> </ul> <p>第2節 移動・移乗の生活支援技術</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体位変換の介助</li> <li>・車いすの介助</li> <li>・安楽な体位の保持と褥瘡の予防</li> </ul> <p>第3節 食事の生活支援技術</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食事の介助</li> <li>・食事に関する福祉用具とその活用方法</li> <li>・誤嚥・窒息の予防</li> </ul> <p>第4節 入浴・清潔保持の生活支援技術</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入浴の介助</li> <li>・入浴に関する福祉用具とその活用方法</li> </ul> <p>第5節 排泄の生活支援技術</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・排泄の介助</li> <li>・排泄に関する福祉用具とその活用方法</li> <li>・頻尿、尿失禁、便秘、下痢、便失禁への対応</li> </ul> <p>第6節 着脱、整容、口腔清潔の生活支援技術</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・衣服着脱の介助</li> <li>・整容の介助</li> <li>・口腔清潔の介助</li> </ul> <p>第7節 休息・睡眠の生活支援技術</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・休息・睡眠の介助を行うにあたって</li> </ul>			

- ・睡眠の介助
- ・睡眠に関する用具とその活用方法

#### 第8節 人生の最終段階における介護の生活支援技術

- ・人生の最終段階における介護を行うにあたって
- ・人生の最終段階の介護
- ・介護職、家族への支援

#### [修了時の達成課題]

・環境整備・移動・移乗・食事・入浴・清潔保持・排泄・着脱、整容、口腔清潔・休息・睡眠・人生の最終段階における介護・福祉用具の活用について、利用者の心身の状態に合わせた、自立に向けた生活支援技術を理解し、行うことができる。

実務者研修 授業概要

アイメイドアルファ介護士育成センター（通信課程）

科目名	介護過程 I	授業担当者	小野 昭尋
授業種類	通信課程	必修・選択	必修
授業回数		時間数	20 時間
使用テキスト	介護福祉士実務者研修テキスト 中央法規		
評価の方法と基準	科目別課題集による添削により70点以上の加点により合格とする。 不合格の場合は合格により修了者と認定できるまで繰り返し課題集を再提出する。		
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <u>介護過程の基礎的知識（目的、意義、展開等）を理解する。</u></li> <li>● <u>介護過程を踏まえ、目標に沿って計画的に介護を行えるようにする。</u></li> <li>● <u>チームで介護過程を展開するための情報共有の方法、他の職種の役割を理解する。</u></li> </ul>			
<p>[授業内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テキストを精読し、各自の理解を深めたうえで課題集を解答させ、評価する。</li> </ul> <p>（テキスト項目）</p> <p>介護福祉士実務者研修テキスト第3巻「第1章 介護過程の基礎的理解」</p> <p>第1節 介護過程の意義と目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護の概念の見直し</li> <li>・根拠にもとづいた介護の実践</li> <li>・介護過程の必要性</li> </ul> <p>第2節 介護過程の展開</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護過程の展開イメージ</li> <li>・アセスメント</li> <li>・計画の立案</li> </ul> <p>第3節 介護過程とチームアプローチ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護過程とケアマネジメントの関係性</li> <li>・介護過程とチームアプローチ</li> </ul>			
<p>[修了時の達成課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護過程の目的、意義、展開等を理解している。</li> <li>・介護過程を踏まえ、目標に沿って計画的に介護を行う。</li> <li>・チームで介護過程を展開するための情報共有の方法、他の職種の役割を理解している。</li> </ul>			

実務者研修 授業概要

アイメイドアルファ介護士育成センター（通信課程）

科目名	介護過程Ⅱ	授業担当者	小野 昭尋
授業種類	通信課程	必修・選択	必修
授業回数		時間数	25 時間
使用テキスト	介護福祉士実務者研修テキスト 中央法規		
評価の方法と基準	科目別課題集による添削により70点以上の加点により合格とする。 不合格の場合は合格により修了者と認定できるまで繰り返し課題集を再提出する。		
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <u>利用者の状態（障害、要介護度、医療依存度、居住の場、家族の状況等）について事例を設定し、介護過程の展開方法を理解する。</u></li> <li>● <u>観察のポイント、安全確保・事故防止、家族支援、他機関との連携等について理解する。</u></li> </ul>			
<p>[授業内容の概要]</p> <p>・テキストを精読し、各自の理解を深めたうえで課題集を解答させ、評価する。 (テキスト項目)</p> <p>介護福祉士実務者研修テキスト第3巻「第2章 介護過程の展開の実際」</p> <p>第1節 介護職による介護過程の進め方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の実践のなかにある介護過程</li> <li>・思考過程の訓練</li> <li>・ケアマネジメントをふまえた介護過程の展開</li> </ul> <p>第2節 介護過程の実践的展開</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事例で学ぶ介護過程の展開</li> <li>・取り上げる事例と構成</li> </ul> <p>第3節 施設で暮らす高齢者の介護過程</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者のプロフィール</li> <li>・家族構成および生活歴</li> <li>・現在の状況</li> </ul> <p>第4節 在宅で暮らす高齢者の介護過程</p> <p>演習課題</p>			
<p>[修了時の達成課題]</p> <p>・情報収集、アセスメント、介護計画立案、実施、モニタリング、介護計画の見直しを行うことができる。</p>			

実務者研修 授業概要

アイメイドアルファ介護士育成センター（通信課程）

科目名	介護過程Ⅲ	授業担当者	小野 昭尋
授業種類	講義（面接授業）	必修・選択	必修
授業回数	11回	時間数	45時間
使用テキスト	介護福祉士実務者研修テキスト 中央法規		
評価の方法と基準	<p>下記の全てを満たし合格とし認定する。</p> <p>科目別課題集による添削により70点以上の加点を有する者。</p> <p>実技試験により70点以上の加点を有する者。</p> <p>課題集不合格の者：不合格の場合は合格により修了者と認定できるまで繰り返し課題集を再提出する。</p> <p>実技試験不合格の者：不合格の場合は合格により修了者と認定できるまで繰り返し実技再試験を受験する。</p>		
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <u>実務者研修課程で学んだ知識・技術を確実に習得し、活用できる。</u></li> <li>● <u>知識・技術を総合的に活用し、利用者の心身の状況に応じて介護過程を展開し、系統的な介護（アセスメント、介護計画立案、実施、モニタリング、介護計画の見直し等）を提供する。</u></li> <li>● <u>介護計画を踏まえ、安全確保・事故防止、家族との連携・支援、他職種、他機関との連携を行う。</u></li> <li>● <u>知識・技術を総合的に活用し、利用者の心身の状況等に応じた介護を行うことができる。</u></li> </ul>			
<p>[授業内容の概要]</p> <p>介護福祉士実務者研修テキスト第3巻「第3章 介護過程の展開の実践」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護過程の展開事例1～4を用いたグループワーク、ロールプレイ</li> <li>・テキスト、プリントの事例に基づいた介護技術の評価</li> <li>・試験実施、解説</li> </ul> <p>①介護過程の展開の実際 ・ 多様な事例を設定し、介護過程を展開させるとともに、知識・技術を総合的に活用した分析力・応用力を評価する。</p> <p>②介護技術の評価 ・ 介護技術の原理原則の習得・実践とともに、知識・技術を総合的に活用した判断力、応用力を評価する。</p> <p>（介護過程の展開）</p> <p>1回目（4時間）</p> <p>介護過程の基礎知識と応用（ケアプランとサービス計画に関する基礎的理解）</p> <p>2回目（4時間）</p> <p>介護過程の基礎知識と応用（居宅サービス計画・訪問介護計画・通所介護計画等とサービスの関係）</p> <p>3回目～9回目（各4時間）</p> <p>演習（事例を用いたグループワーク・ロールプレイ）</p> <p>（介護技術の評価）</p> <p>10回目（4時間） テキストの事例に基づいた介護技術の評価・解説・知識等習得度評価</p> <p>11回目（5時間） テキストの事例に基づいた介護技術の評価・解説・知識等習得度評価</p>			
<p>[修了時の達成課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 実務者研修課程で学んだ知識・技術を確実に習得し、活用できる。</li> </ul>			

- 知識・技術を総合的に活用し、利用者の心身の状況に応じて介護過程を展開し、系統的な介護（アセスメント、介護計画立案、実施、モニタリング、介護計画の見直し等）を提供できる。
- 介護計画を踏まえ、安全確保・事故防止、家族との連携・支援、他職種、他機関との連携を行うことができる。
- 知識・技術を総合的に活用し、利用者の心身の状況等に応じた介護を行うことができる。

タイトル	時間割		内容	到達目標
①介護過程 の展開 (36時間)	1日目			<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護過程Ⅰ・Ⅱで学んだ知識・技術を確実に習得し、活用できる。</li> <li>・知識・技術を総合的に活用し、利用者の心身の状況等に応じて介護過程を展開し、体系的な介護（アセスメント、介護計画立案、実施、モニタリング、介護計画の見直し等）を提供できる。</li> <li>・介護計画を踏まえ、安全確保・事故防止、家族との連携・支援・多職種、他機関との連携を行うことができる。</li> <li>・知識・技術を総合的に活用し、利用者の心身の状況等に応じた介護を行うことができる。</li> </ul>
	1時間目	8:30～	介護過程の基礎知識と応用	
	2時間目	10:00		
	3時間目	10:15～		
	4時間目	11:45		
	5時間目	12:45～		
	6時間目	14:15		
	7時間目	14:30～		
	8時間目	16:00		
	9時間目	16:10～ 17:10		
	2日目			
	1時間目	8:30～	演習（事例を用いたグループワーク・ロールプレイ）	
	2時間目	10:00		
	3時間目	10:15～		
	4時間目	11:45		
	5時間目	12:45～		
	6時間目	14:15		
	7時間目	14:30～		
	8時間目	16:00		
	9時間目	16:10～ 17:10		
	3日目			
	1時間目	8:30～	演習（事例を用いたグループワーク・ロールプレイ）	
	2時間目	10:00		
	3時間目	10:15～		
	4時間目	11:45		
	5時間目	12:45～		
	6時間目	14:15		
7時間目	14:30～			
8時間目	16:00			
9時間目	16:10～ 17:10			

	4 日目		
	1 時間目	8 : 30～	演習（事例を用いたグループワーク・ロールプレイ）
	2 時間目	10 : 00	
	3 時間目	10 : 15～	
	4 時間目	11 : 45	
	5 時間目	12 : 45～	
	6 時間目	14 : 15	
	7 時間目	14 : 30～	
	8 時間目	16 : 00	
9 時間目	16 : 10～ 17 : 10		
②介護技術の評価・解説・知識等習得（9h）	5 日目		
	1 時間目	8 : 30～	テキストの事例に基づいた介護技術の評価試験実施・解説
	2 時間目	10 : 00	
	3 時間目	10 : 15～	
	4 時間目	11 : 45	
	5 時間目	12 : 45～	
	6 時間目	14 : 15	
	7 時間目	14 : 30～	
	8 時間目	16 : 00	
9 時間目	16 : 10～ 17 : 10		

実務者研修 授業概要

アイメイドアルファ介護士育成センター（通信課程）

科目名	発達と老化の理解 I	授業担当者	小野 昭尋
授業種類	通信課程	必修・選択	必修
授業回数		時間数	10 時間
使用テキスト	介護福祉士実務者研修テキスト 中央法規		
評価の方法と基準	科目別課題集による添削により 70 点以上の加点により合格とする。 不合格の場合は合格により修了者と認定できるまで繰り返し課題集を再提出する。		
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <u>老化に伴う心理的な変化の特徴と日常生活への影響を理解できる。</u></li> <li>● <u>老化に伴う身体機能の変化の特徴と日常生活への影響を理解できる。</u></li> </ul>			
<p>[授業内容の概要]</p> <p>・テキストを精読し、各自の理解を深めたうえで課題集を解答させ、評価する。 (テキスト項目)</p> <p>介護福祉士実務者研修テキスト第 4 巻「第 3 章 老化に伴うこころとからだの変化」</p> <p>第 1 節 こころの変化と日常生活への影響</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・老化が及ぼす心理的影響</li> <li>・自己概念と生きがい</li> </ul> <p>第 2 節 からだの変化と日常生活への影響</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・加齢に伴う身体機能の変化と日常生活への影響</li> <li>・さまざまな機能の変化</li> </ul>			
<p>[修了時の達成課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 老化に伴う心理的な変化の特徴と日常生活への影響を理解している。</li> <li>● 老化に伴う身体機能の変化の特徴と日常生活への影響を理解している。</li> </ul>			

実務者研修 授業概要

アイメイドアルファ介護士育成センター（通信課程）

科目名	発達と老化の理解Ⅱ	授業担当者	小野 昭尋
授業種類	通信課程	必修・選択	必修
授業回数		時間数	20 時間
使用テキスト	介護福祉士実務者研修テキスト 中央法規		
評価の方法と基準	科目別課題集による添削により70点以上の加点により合格とする。 不合格の場合は合格により修了者と認定できるまで繰り返し課題集を再提出する。		
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <u>ライフサイクル各期の発達の定義、発達段階、発達課題について理解する。</u></li> <li>● <u>老年期の発達課題、心理的な課題（老化、役割の変化、障害、喪失、経済的不安、うつ等）と支援の留意点について理解する。</u></li> <li>● <u>高齢者に多い症状・疾病等と支援の留意点について理解する。</u></li> </ul>			
<p>[授業内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テキストを精読し、各自の理解を深めたうえで課題集を解答させ、評価する。</li> </ul> <p>（テキスト項目）</p> <p>介護福祉士実務者研修テキスト第4巻「第4章 人間の成長・発達」</p> <p>第1節 人間の成長・発達</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発達の定義</li> <li>・発達段階と発達課題</li> <li>・各ライフサイクルの発達</li> </ul> <p>第2節 老年期の発達・成熟と心理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・老年期の定義</li> <li>・老年期の心理的課題と適応</li> <li>・要介護状態と高齢者の心理</li> </ul> <p>第3節 高齢者に多くみられる症状・疾病等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者に多くみられる症状・訴えとその留意点</li> <li>・介護を要する高齢者によくみられる病気・病態</li> </ul>			
<p>[修了時の達成課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ライフサイクル各期の発達の定義、発達段階、発達課題について理解している。</li> <li>・老年期の発達課題、心理的な課題（老化、役割の変化、障害、喪失、経済的不安、うつ等）と支援の留意点について理解している。</li> <li>・高齢者に多い症状・疾病等と支援の留意点について理解している。</li> </ul>			

実務者研修 授業概要

アイメイドアルファ介護士育成センター（通信課程）

科目名	認知症の理解 I	授業担当者	小野 昭尋
授業種類	通信課程	必修・選択	必修
授業回数		時間数	10 時間
使用テキスト	介護福祉士実務者研修テキスト 中央法規		
評価の方法と基準	科目別課題集による添削により 70 点以上の加点により合格とする。 不合格の場合は合格により修了者と認定できるまで繰り返し課題集を再提出する。		
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <u>認知症ケアの取組の経過を踏まえ、今日的な認知症ケアの理念を理解する。</u></li> <li>● <u>認知症による生活上の障害、心理・行動の特徴を理解する。</u></li> <li>● <u>認知症の人やその家族に対する関わり方・支援の基本を理解する。</u></li> </ul>			
<p>[授業内容の概要]</p> <p>・テキストを精読し、各自の理解を深めたうえで課題集を解答させ、評価する。 (テキスト項目)</p> <p>介護福祉士実務者研修テキスト第4巻「第5章 認知症の基礎的理解」</p> <p>第1節 認知症ケアの理念と視点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症ケアを取り巻く状況</li> <li>・認知症ケアの理念</li> <li>・認知症ケアの視点</li> </ul> <p>第2節 認知症による生活障害、心理・行動の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「人」と「生活」の理解</li> <li>・認知症ケアはなぜ「人」と「生活」に焦点をあてる必要があるのか</li> <li>・認知症の中核症状</li> </ul> <p>第3節 認知症の人や家族へのかかわり・支援の基本</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症の人にかかわる際の前提</li> <li>・実際のかかわり方の基本</li> <li>・家族への支援</li> </ul>			
<p>[修了時の達成課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症ケアの取組の経過を踏まえ、今日的な認知症ケアの理念を理解している。</li> <li>・認知症による生活上の障害、心理・行動の特徴を理解している。</li> <li>・認知症の人やその家族に対する関わり方・支援の基本を理解している。</li> </ul>			

実務者研修 授業概要

アイメイドアルファ介護士育成センター（通信課程）

科目名	認知症の理解Ⅱ	授業担当者	小野 昭尋
授業種類	通信課程	必修・選択	必修
授業回数		時間数	20 時間
使用テキスト	介護福祉士実務者研修テキスト 中央法規		
評価の方法と基準	科目別課題集による添削により70点以上の加点により合格とする。 不合格の場合は合格により修了者と認定できるまで繰り返し課題集を再提出する。		
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <u>代表的な認知症（若年性認知症を含む）の原因疾患、症状、障害、認知症の進行による変化、検査や治療等についての医学的知識を理解する。</u></li> <li>● <u>認知症の人の生活歴、疾患、家族・社会関係、居住環境等についてアセスメントし、本人主体の理念に基づいた支援をする。</u></li> <li>● <u>地域におけるサポート体制を理解し、支援に活用する。</u></li> </ul>			
<p>[授業内容の概要]</p> <p>・テキストを精読し、各自の理解を深めたうえで課題集を解答させ、評価する。 （テキスト項目）</p> <p>介護福祉士実務者研修テキスト第4巻「第6章 認知症の医学的理解と支援の実際」</p> <p>第1節 医学的側面からみた認知症の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症とは</li> <li>・認知症の診断</li> <li>・認知症の原因疾患とその病態</li> </ul> <p>第2節 認知症の人への支援の実際</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症のアセスメント</li> <li>・中核症状へのかかわり方の実際</li> <li>・BPSD（行動・心理症状）へのかかわり方の実際</li> </ul>			
<p>[修了時の達成課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 代表的な認知症（若年性認知症を含む）の原因疾患、症状、障害、認知症の進行による変化、検査や治療等についての医学的知識を理解している。</li> <li>● 認知症の人の生活歴、疾患、家族・社会関係、居住環境等についてアセスメントし、本人主体の理念に基づいた支援ができる。</li> <li>● 地域におけるサポート体制を理解し、支援に活用できる。</li> </ul>			

実務者研修 授業概要

アイメイドアルファ介護士育成センター（通信課程）

科目名	障害の理解 I	授業担当者	小野 昭尋
授業種類	通信課程	必修・選択	必修
授業回数		時間数	10 時間
使用テキスト	介護福祉士実務者研修テキスト 中央法規		
評価の方法と基準	科目別課題集による添削により 70 点以上の加点により合格とする。 不合格の場合は合格により修了者と認定できるまで繰り返し課題集を再提出する。		
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <u>障害の概念の変遷や障害者福祉の歴史を踏まえ、今日的な障害者福祉の理念を理解する。</u></li> <li>● <u>障害のある人やその家族に対する関わり方・支援の基本を理解する。</u></li> <li>● <u>障害（身体・知的・精神・発達障害・難病等）による生活上の障害、心理・行動の特徴を理解する。</u></li> </ul>			
<p>[授業内容の概要]</p> <p>・テキストを精読し、各自の理解を深めたうえで課題集を解答させ、評価する。 (テキスト項目)</p> <p>介護福祉士実務者研修テキスト第 4 巻「第 7 章 障害の基礎的理解」</p> <p>第 1 節 障害者福祉の理念</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「障害」のとらえ方</li> <li>・国際障害分類と国際生活機能分類</li> <li>・障害者福祉の基本理念</li> </ul> <p>第 2 節 障害による生活障害、心理・行動の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身体障害による生活上の障害と心理・行動の特徴</li> <li>・知的障害による生活上の障害と心理・行動の特徴</li> <li>・精神障害による生活上の障害と心理・行動の特徴</li> </ul> <p>第 3 節 障害のある人や家族へのかかわり・支援の基本</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・障害のある人へのかかわり・支援の基本</li> <li>・家族の理解と障害の受容支援</li> <li>・介護負担の軽減</li> </ul>			
<p>[修了時の達成課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・障害の概念の変遷や障害者福祉の歴史を踏まえ、今日的な障害者福祉の理念を理解している。</li> <li>・障害（身体・知的・精神・発達障害・難病等）による生活上の障害、心理・行動の特徴を理解している。</li> <li>・障害のある人やその家族に対する関わり方・支援の基本を理解している。</li> </ul>			

実務者研修 授業概要

アイメイドアルファ介護士育成センター（通信課程）

科目名	障害の理解Ⅱ	授業担当者	小野 昭尋
授業種類	通信課程	必修・選択	必修
授業回数		時間数	20 時間
使用テキスト	介護福祉士実務者研修テキスト 中央法規		
評価の方法と基準	科目別課題集による添削により70点以上の加点により合格とする。 不合格の場合は合格により修了者と認定できるまで繰り返し課題集を再提出する。		
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <u>様々な障害の種類・原因・特性、障害に伴う機能の変化等についての医学的知識を習得する。</u></li> <li>● <u>障害の特性、家族・社会関係、居住環境等についてアセスメントし、その状況に合わせて支援する。</u></li> <li>● <u>地域におけるサポート体制を理解し、支援に活用する。</u></li> </ul>			
<p>[授業内容の概要]</p> <p>・テキストを精読し、各自の理解を深めたうえで課題集を解答させ、評価する。 (テキスト項目)</p> <p>介護福祉士実務者研修テキスト第4巻「第8章 障害の医学的理解と支援の実際」</p> <p>第1節 医学的側面からみた障害の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・視覚障害</li> <li>・聴覚・言語障害</li> <li>・運動機能障害</li> </ul> <p>第2節 障害の特性に応じた支援の実際</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アセスメントの視点と個別支援</li> <li>・障害のある人がふつうに暮らせる地域づくり</li> <li>・地域におけるサポート体制</li> </ul>			
<p>[修了時の達成課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 様々な障害の種類・原因・特性、障害に伴う機能の変化等についての医学的知識を習得している。</li> <li>● 障害の特性、家族・社会関係、居住環境等についてアセスメントし、その状況に合わせた支援ができる。</li> <li>● 地域におけるサポート体制を理解し、支援に活用できる。</li> </ul>			

実務者研修 授業概要

アイメイドアルファ介護士育成センター（通信課程）

科目名	こころとからだのしくみ I	授業担当者	小野 昭尋
授業種類	通信課程	必修・選択	必修
授業回数		時間数	20 時間
使用テキスト	介護福祉士実務者研修テキスト 中央法規		
評価の方法と基準	科目別課題集による添削により 70 点以上の加点により合格とする。 不合格の場合は合格により修了者と認定できるまで繰り返し課題集を再提出する。		
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <u>介護に関係した身体の構造や機能に関する基本的な知識（移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔等）を習得する。</u></li> </ul>			
<p>[授業内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テキストを精読し、各自の理解を深めたうえで課題集を解答させ、評価する。</li> </ul> <p>(テキスト項目)</p> <p>介護福祉士実務者研修テキスト第4巻「第1章 介護に関連するこころとからだのしくみ」</p> <p>第1節 移動・移乗に関連するからだのしくみ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な姿勢</li> <li>・基本的なからだのしくみ</li> </ul> <p>第2節 食事に関連するからだのしくみ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的なからだのしくみ</li> <li>・栄養素とエネルギー</li> <li>・代償的な栄養摂取法</li> </ul> <p>第3節 入浴・清潔保持に関連するからだのしくみ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的なからだのしくみ</li> <li>・入浴と清潔保持の意味</li> </ul> <p>第4節 排泄に関連するからだのしくみ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的なからだのしくみ</li> </ul> <p>第5節 着脱、整容、口腔清潔に関連するからだのしくみ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的なからだのしくみ</li> <li>・着脱、整容、口腔清潔の意味</li> </ul> <p>第6節 休息・睡眠に関連するからだのしくみ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的なからだのしくみ</li> <li>・こころのしくみ</li> </ul>			
<p>[修了時の達成課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護に関係したからだの構造や機能に関する基本的な知識を習得している。</li> </ul>			

実務者研修 授業概要

アイメイドアルファ介護士育成センター（通信課程）

科目名	こころとからだのしくみⅡ	授業担当者	小野 昭尋
授業種類	通信課程	必修・選択	必修
授業回数		時間数	60 時間
使用テキスト	介護福祉士実務者研修テキスト 中央法規		
評価の方法と基準	科目別課題集による添削により70点以上の加点により合格とする。 不合格の場合は合格により修了者と認定できるまで繰り返し課題集を再提出する。		
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <u>人間の基本的欲求、学習・記憶等に関する基礎的知識を習得する。</u></li> <li>● <u>生命の維持・恒常、人体の部位、骨格・関節・筋肉・神経、ボディメカニクス等、人体の構造と機能についての基本的な知識を習得する。</u></li> <li>● <u>身体の仕組み、心理・認知機能等についての知識を活用し、観察・アセスメント、関連する職種との連携が行える。</u></li> </ul>			
<p>[授業内容の概要]</p> <p>・テキストを精読し、各自の理解を深めたうえで課題集を解答させ、評価する。 (テキスト項目)</p> <p>介護福祉士実務者研修テキスト第4巻「第2章 心身の構造・機能と介護における観察のポイント」</p> <p>第1節 人間の心理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人間の欲求の基本的理解</li> <li>・こころのしくみの基礎</li> </ul> <p>第2節 人体の構造と機能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生命の維持・恒常のしくみ</li> <li>・人間のからだのしくみ</li> <li>・ボディメカニクスの活用</li> </ul> <p>第3節 移動・移乗における観察のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・移動・移乗を阻害する要因の理解</li> <li>・変化に気づくための観察のポイント</li> <li>・医療職との連携のポイント</li> </ul> <p>第4節 食事における観察のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食事を阻害する要因の理解</li> <li>・変化に気づくための観察のポイント</li> <li>・医療職との連携のポイント</li> </ul> <p>第5節 入浴・清潔保持における観察のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入浴を阻害する要因の理解</li> <li>・変化に気づくための観察のポイント</li> <li>・医療職との連携のポイント</li> </ul> <p>第6節 排泄における観察のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・排泄を阻害する要因の理解</li> <li>・変化に気づくための観察のポイント</li> </ul>			

・医療職との連携のポイント

第7節 着脱、整容、口腔清潔における観察のポイント

- ・身じたくを阻害する要因の理解
- ・変化に気づくための観察のポイント
- ・医療職との連携のポイント

第8節 休息・睡眠における観察のポイント

- ・睡眠を阻害する要因の理解
- ・変化に気づくための観察のポイント
- ・医療職との連携のポイント

第9節 人生の最終段階のケアにおける観察のポイント

- ・終末期の理解
- ・こころのしくみ
- ・終末期から危篤状態の変化の特徴

[修了時の達成課題]

- 人間の基本的欲求、学習・記憶等に関する基礎的知識を習得している。
- 生命の維持・恒常、人体の部位、骨格・関節・筋肉・神経、ボディメカニクス等、人体の構造と機能についての基本的な知識を習得している。
- 身体の仕組み、心理・認知機能等についての知識を活用し、観察・アセスメント、関連する職種との連携が行える。

実務者研修 授業概要

アイメイドアルファ介護士育成センター（通信課程）

科目名	医療的ケア	授業担当者	日坂 朋子
授業種類	通信課程	必修・選択	必修
授業回数		時間数	通信 50 時間
使用テキスト	介護福祉士実務者研修テキスト 中央法規		
評価の方法と基準	科目別課題集による添削により70点以上の加点により合格とする。 不合格の場合は合格により修了者と認定できるまで繰り返し課題集を再提出する。		
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <u>医療的ケア（喀痰吸引、経管栄養等）を安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する。</u></li> </ul>			
<p>[授業内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療的ケア（喀痰吸引、経管栄養等）を安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する。（テキスト項目）</li> </ul> <p>介護福祉士実務者研修テキスト第5「第1章 医療的ケアの実施の基礎」</p> <p>第1節 医療的ケア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・喀痰吸引等制度（社会福祉士及び介護福祉士法の改正）</li> <li>・医療的ケアと喀痰吸引等の背景</li> <li>・医行為について</li> </ul> <p>第2節 安全な療養生活</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・喀痰吸引や経管栄養の安全な実施</li> <li>・救急蘇生 第3節 清潔保持と感染予防</li> <li>・感染予防</li> <li>・介護職の感染予防</li> <li>・療養環境の清潔、消毒法</li> </ul> <p>第4節 健康状態の把握</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身体・精神の健康</li> <li>・健康状態を知る項目（バイタルサインなど）</li> <li>・急変状態について第2章 喀痰吸引（基礎的知識・実施手順）</li> </ul> <p>第1節 高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論</li> </ul> <p>第2節 高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説</li> </ul> <p>第3章 経管栄養（基礎的知識・実施手順）</p> <p>第1節 高齢者および障害児・者の経管栄養概論</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者および障害児・者の経管栄養概論</li> </ul> <p>第2節 高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説</li> </ul>			
<p>[修了時の達成課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する。</li> </ul>			

実務者研修 授業概要

アイメイドアルファ介護士育成センター（通信課程）

科目名	医療的ケア演習	授業担当者	日坂 朋子
授業種類	講義（面接授業）	必修・選択	必修
授業回数	2回	時間数	
使用テキスト	介護福祉士実務者研修テキスト 中央法規		
評価の方法と基準	<p>「演習」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・喀痰吸引</li> </ul> <p>口腔内・鼻腔内吸引・気管カニューレ内部それぞれのシミュレーター演習を5回以上、指導者評価によってそれぞれ手順通りにでき、かつ累積成功率が70%以上で合格とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経管栄養</li> </ul> <p>胃ろう又は腸ろう・経鼻、それぞれのシミュレーター演習を5回以上、指導者評価によってそれぞれ手順通りにでき、かつ累積成功率が70%以上で合格とする。</p> <p>※通信・演習（喀痰吸引・経管栄養）、両方の合格により科目の修了を認定する。</p> <p>不合格者の対応：喀痰吸引、経管栄養共に、不合格の場合は累積成功率70%以上の合格により修了者と認定できるまで繰り返し演習を受講する。</p>		
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <u>医療的ケア（喀痰吸引、経管栄養等）を安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する。</u></li> </ul>			
<p>[授業内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講義による確認。</li> </ul> <p>講義（演習）</p> <p>介護福祉士実務者研修テキスト第5巻「第4章 演習」</p> <p>第4章 演習</p> <p>第1節 喀痰吸引のケア実施の手引き</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・口腔内および鼻腔内</li> <li>・気管カニューレ内部</li> </ul> <p>第2節 経管栄養のケア実施の手引き</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・胃ろうまたは腸ろうによる経管栄養</li> <li>・半固形化栄養剤による胃ろうまたは腸ろうの経管栄養</li> <li>・経鼻経管栄養</li> </ul> <p>第3節 救急蘇生法の手引き</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・救急蘇生法</li> <li>・AED仕様の手順</li> </ul> <p>演習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シミュレーターによる喀痰吸引の実施演習（口腔、鼻腔、気管カニューレ内部を各5回以上）</li> <li>・シミュレーターによる経管栄養の実施演習（胃ろう又は腸ろう、経鼻経管栄養を各5回以上）</li> <li>・救急蘇生法演習（1回以上）</li> <li>・医療的ケア全体のプロセス評価</li> </ul>			

各回のテーマ・授業方針

・ 1回目（4.5時間）

喀痰吸引の基礎的知識と実施手順の確認、シミュレーターによる実技演習 救急蘇生法演習

・ 2回目（4.5時間）

経管栄養の基礎的知識と実施手順の確認、シミュレーターによる実技演習

救急蘇生法演習（3時間）

[修了時の達成課題]

・ 医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する。

医療的ケア演習：講師 日坂 朋子

アイメイドアルファ介護士育成センター（通信課程）

	時間割	内容	到達目標
1	8：30～10：00	喀痰吸引の基礎的知識と実施手順の確認	医療的ケアを安全・適切に実施 するために必要な知識・技術を習得する。
2	10：15～11：45	シミュレーターによる喀痰吸引の実技演習（口腔、鼻腔、気管カニューレ内部を各5回以上）	
3	13：00～14：30		
4	14：45～16：15	救急蘇生法演習	

	時間割	内容	到達目標
1	8：30～10：00	経管栄養の基礎的知識と実施手順の確認	医療的ケアを安全・適切に実施 するために必要な知識・技術を習得する。
2	10：15～11：45	シミュレーターによる経管栄養の実技演習（胃ろう又は腸ろう、経鼻経管栄養を各5回以上）	
3	13：00～14：30		
4	14：45～16：15	救急蘇生法演習（1回以上）	